

フルーツ・ステーションの創出とネットワーク化に向けた調査検討 の進捗状況について

I 先導的なフルーツ・ステーションについて

今年度は、民間活力の導入に向けて、(株)日本総合研究所への委託により民間事業者へのサウンディング調査や官民の連携手法の検討等を行う「官民連携導入可能性調査」を実施している。

1 これまでの調査経過（7～8月）

調査を進めるにあたり必要となる、公園の現況やマーケット環境等の前提条件の整理・分析、生産者へのヒアリングを実施した。

【調査項目】

地域の概況、商圈分析、産業の概況、観光の概況、フルーツ消費の動向、対象施設の概要及び管理運営の現状、関連計画及び関連法制度、他都市における類似・先進事例

2 民間事業者へのサウンディング調査（9月～）

民間事業者への参入意向や事業アイデア等の聴き取りを行うサウンディング調査を実施している。具体的には、上記のこれまでの調査により得られた調査検討の視点や、現時点で想定するフルーツ・ステーションのイメージ（(株)日本総合研究所の試案）を提示した上で、民間事業者と対話を行い、民間活力の導入による公園再整備の可能性を検証する。

(1) 調査検討の視点

これまでの調査を踏まえた、調査検討の視点は以下のとおり。

① 対象地のポテンシャル

現状でも60万人を超える来園者を誇る機能を有していることに加えて、広域交通結節点や滞在型観光施設に隣接した立地条件となっている。

② 国内外のトレンド

海外のフルーツに係る消費量やライフスタイル、国内における昨今のフルーツに関する高付加価値化傾向に鑑みると、国内におけるフルーツ産業は今後も十分な伸びしろを有する。

③ 対象ターゲット

消費者をターゲットに県産フルーツの魅力と消費量を更に増大させる（B to C）とともに、事業者もターゲットにすることで、今後、フルーツ産業に参画する事業者を増やし、本分野での新たなビジネスの創出と更なる発展に寄与する（B to B）。

(2) 現時点で想定するフルーツ・ステーションのイメージ（(株)日本総合研究所の試案）

上記の調査検討の視点を踏まえ、(株)日本総合研究所が現時点で想定するフルーツ・ステーションのイメージは以下のとおり。

① コンセプト

『県産フルーツの魅力発信により国内フルーツ産業を最先端で牽引するフルーツ・コア・ステーション』

② 整備内容の例

ア 県産フルーツの果樹園

広大な敷地と豊かな自然環境を活用し、園内各所に県産フルーツの果樹を植栽することで、来園者が自由に果樹やフルーツに触れられる場と機会を提供する。

イ 県産フルーツの6次産業拠点

園内等で収穫された県産フルーツの販売や飲食、加工・料理体験を通して、県産フルーツを堪能・学習できる。生産者と消費者の先入観を覆す新たな加工・新たな食べ方を提案する。【B to C 拠点】

ウ インキュベーション施設(県産フルーツを活用した新たなビジネスを支援する施設)

県産フルーツの研究・商品開発拠点、県産フルーツに関係する事業者のマッチングや商談拠点、新たに県産フルーツによるビジネスを起業する起業家・スタートアップ企業のインキュベーション拠点となる。【B to B 拠点】

エ オーベルジュ(宿泊機能+レストラン)

園内で収穫された県産フルーツ等を使った驚きのある食体験を提供する宿泊施設を有したレストラン。世界中で活躍するトップシェフなどが期間限定で滞在して料理を提供する「シェフ・イン・レジデンス」を行うなど、幅広い利用を想定する。

3 今年度の主なスケジュール(予定)

- 9月～ 民間事業者へのサウンディング調査(参入意向、事業アイデア等の聴取)
基本計画の検討(整備内容の検討、概算事業費の算出)
- 10月～ 事業スキームの検討(事業期間、業務範囲、事業手法等の検討)
- 3月 調査結果の取りまとめ(基本計画(案)の完成、事業スキームの選定)

II 各地域におけるフルーツ・ステーションの創出とネットワーク化について

1 フルーツ・ステーションネットワーク推進プラットフォームの設置

設置時期 令和5年8月

目的 フルーツ・ツーリズムの活性化のための検討

フルーツ・ステーションの創出及びそのネットワーク化の推進

取組内容 フルーツ・ステーションを通じたフルーツ・ツーリズムの推進に向けた情報やノウハウの共有、意見交換等

会員間のネットワーク化の推進のための意見交換等

会 員 県、県内市町村、民間事業者【会員数：39(R5.9月末時点)】

事務局 山形県農林水産部農政企画課

2 第1回プラットフォーム会議

日 時 令和5年9月11日(月) 13:30～16:00

- 会 場** 山形県庁講堂
- 参加者** 34名（内訳：市町村17名、事業者17名（生産者、JA関係者、産直施設、道の駅、観光事業者など））
- 内 容**
- ① 県からの施策説明
 - ・フルーツ・ツーリズムとフルーツ・ステーションネットワーク構想について
 - ・令和5年度の実施について
 - ② 有識者による講演（オンライン）
講師：株式会社食農夢創 代表取締役 仲野 真人 氏
演題：特産農産物を活用した「情報発信拠点」の可能性と取組事例
 - ③ 意見交換
 - ・フルーツとの関わり方について
 - ・フルーツを活用する上での課題について など

3 今年度のプラットフォームの取組み（予定）

- (1) 優良事例の現地調査〔時期：10～11月頃、回数：2回〕
- (2) 専門家によるセミナー〔時期：11～12月頃、回数：2回〕
- (3) 意見交換会〔時期：12～3月頃、回数：内陸地域・庄内地域で各2回〕
- (4) 個別相談〔時期：随時〕

4 市町村による調査検討への補助

各地域における自主的なステーション創出に向けた取組みを支援するため、市町村が行う調査検討への補助を実施する。

【補助金の概要】

補助対象者 プラットフォームの会員である県内市町村

対象経費 フルーツ・ステーション創出に向けた調査検討に要する経費
〔対象経費の例〕

- ・有識者からの意見聴取に対する謝礼
- ・優良事例の視察に係る交通費
- ・コンサルタントへの調査委託料
- ・検討会議の開催に係る会場借上料 等

補助率 定額補助（上限額：500千円）

以 上